

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP 公開 (可 ・ 否)

区 分	1.森づくり <u>4.森と暮らし</u>	2.森の恵み 5.森の文化財	3.森と技 6.森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 共同祈願	(ふりがな) きょうどうきがん	
地域独特の呼び方	—		
タイトル	雨乞い		
伝承地域	相双地方		
由 来	<small>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられたか)</small> 農作物に害を及ぼすほど雨が極端に少ないときに行われる儀礼で、全国各地にあったが、灌漑設備の充実や灌漑方法の改良によって昭和 40 年代以降はほとんど行われなくなった。		
内 容	<small>(内容とともに、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</small> 今から 7、80 年ほど前の鹿島町海老浜での伝承。昭和初期 (7、8 年頃) の早魃ははなはだしく、鹿島町全域にまたがるほどの大がかりな雨乞いがあった。この時の雨乞いでは、農家 1 軒から一人が蓑笠を着けて海老浜に集まった。海辺に立てた櫓の上に声のよく通る音頭取りが上がる。音頭取りが手に持った笠で雨を招きよせるしぐさをしながら、「雨たんもう竜王よ、沖に雲ささえて、ざあざあと降ってこう」と大声で唱える。それにあわせて群衆も雨を招きよせるしぐさをして「ざあざあと降ってこう」と唱えた。それを 3 回繰り返した。帰りがけには雨がぽつぽつ降ってきたという。 雨乞いは、大規模な雨乞いのほか、小規模な雨乞いは集落単位で行った。鹿島町浮田では縦木沢堤、小島田では「つづき山」、上真野では立石、小山田では大日山、南屋形では陣馬山頂にある田神社、鳥浜では海辺で行なった。小山田の場合は大日山に薪を背負って登り、山頂で火をどんどん焚いて雨乞いした。昭和 40 年代には蓑笠姿の村人たちが町にある鹿島御子神社に集合し、境内の雷神社を海老の浜まで遷し、そこで音頭取りが笠をもって雨を招くしぐさをしながら、「雨たんもうよ、龍王よ」と唱え、全員が唱和して降雨を祈願したという。		
文化財等の指定状況			
問い合わせ先			

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）		※顔写真ありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。（貼りつけずに名前がわかるようにして同封ください。）
	性別・年齢	男 ・ 女	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成 年生	
	住所・電話	〒 電話	
団体	職業		
	団体名（ふりがな）		
	代表者氏名（ふりがな）		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先		電話

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

双葉町天王山での雨乞い(大正 15 年 7 月)



(双葉町教育委員会)

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを 1 部ご恵与ください。